

西來寺報

（報恩講によせて）

記録的な猛暑もどうにかおさま
り秋の色が濃くなつてまいりまし
た。

さて、今年も報恩講の季節が近
づいてまいりました、そして来年
本山では宗祖親鸞聖人の七五〇回
御遠忌法要を迎えようとしており
ます。

皆さんの中には、お寺の行事と
して春秋の彼岸、お盆はともかく
報恩講といわれてもピンとこない
方もおられると思います。何で
七五〇年前の人の年忌法要を毎年
行うのかと疑問に思うこともある
でしょう。しかし、私たち真宗門
徒にとりまして御正忌報恩講は最
も大切な年中行事とされているの
は何故でしょうか。

蓮如上人の御文の中に次の様な
一節があります。
「このゆえに、（報恩講の）
七昼夜の時節にあいあたり、不法
不信の根機においては、往生浄土

の信心、獲得せし
むべきものなり。
これしかしながら
今月聖人の御正忌
の報恩たるべし。」

とあります。つまり、報恩講はた
だ単に親鸞聖人を偲ぶ法会ではな
く、このときを縁として私たちひ
とりひとり、聖人の残された教
えに出会い、信心を明らかにする
こと、このことが本当の意味での
「報恩」ということでしょう。そ
うであるならば、聖人は決して七
五〇年前の人ではなく、
今現在説法まします方としていた
だけるのではないのでしょうか。
真宗の碩学、金子大栄先生は次
のような詩を書かれております。

親鸞聖人讃仰

昔法師あり
親鸞と名づく
殿上に生まれて 庶民の心あり
底下となりて 高貴の性を失なわ
ず
已にして 愛欲の断ち難きを知り
俗に帰れども 道心を捨てず
一生凡夫にして
大涅槃の終わりを期す
人間を懐かしみつつ 人に昵む能

わす
名利の空なるを知りて 離れ得ざ
るを悲しむ
流浪の生涯に 常楽の故郷を慕い
孤独の淋しさに 万人の悩みを思
う

聖教を披くも 文字を見ず
ただ 言葉のひびきをきく
正法を説けども 師弟を言わず
ひとえに 同朋の縁をよろこぶ
本願を仰いで
身の善悪をかえりみず
念仏に親しんで
自から 無碍の一道を知る

人に知られざるを憂えず
ただ 世を汚さんことを恐る
己身の罪障に徹して
一切群生の救いを願う

その人逝きて 数世紀
長えに 死せるが如し
その人去りて 七百年
いまなお 生けるが如し

その人を憶いて われは生き
その人を忘れて われは迷う
曠劫多生の縁
よろこび つくることなし

この詩から分かりますことは金子
先生にとりまして聖人はただ過去
の人ではなく、その教えを通して
今も語りかける人であったことで
しょう。

私たちも宗祖としての親鸞聖人
の教えに耳を傾け仏道を歩んでい
けるよう、今年の報恩講を迎えた
いものです。
さて、本山では宗祖親鸞聖人の
五〇年に一度の御遠忌法要がいよ
いよ来年にせまっております。

やっと秋が来ました



池の前のススキ
十月一日撮影

【報恩講のご案内】

本年度報恩講を左記の要領でお勤め致しますので、ご案内申し上げます。

皆様、万障お繰り合わせのうえ、ご参詣いただき、一緒に報恩講のお勤めをしていただきますよう、心よりお待ち申し上げます。

合掌

《記》

◎日時

十月二十八日(木)

午後一時より法話

午後二時より日中法要

◎法話のご講師

渡辺智香 師

真宗大谷派

川崎組 西福寺住職

※当日は庫裡大玄関にて受付を済ませてから、本堂にお入りください。

【門徒Q&A】

Q 『帰敬式』ってなに？

お坊さんになるための儀式？丸坊主にしなきゃいけないの？

A 『帰敬式』(ききょうしき)とは、仏弟子としての名のりを、より確かなものにする式のことです。

三帰依と言って、仏・法・僧の三宝に帰依し、仏弟子として生きていく決意を表す、真宗門徒として大切な儀式です。

別名『おかみそり』とも呼ばれ、頭にかみそりを当てはしますが、僧侶になるための『得度式』とは違って、本当に剃髪はしません。

人間は本来平等なものです。私たちは日頃、どうしても社会的な地位、あるいは財産と言った世俗的な価値を基準として生き、それに縛られてしまいがちです。

しかし、そうした世俗的価値の偏重が、「格差社会」や「孤独死」などの言葉に代表される、現代の社会のひずみ、人の心の荒廃を招いてしまっているのではないのでしょうか。

そのような「今」であるからこそ、本心に尊いこと(本尊)を見失わず、改めて自らを見つめ直す機会を持つことが重要になってきます。

前号で、『法名』(ほうみょう)とは何か、について取り上げましたが、帰敬式をお受けになると、『法名』が授与されます。

すべての存在は、名を与えられて初めて存在すると言われます。『法名』を名のるということは、仏弟子としての自分の存在を確認することです。

たしかに、『帰敬式』を受けずとも、仏弟子として生きることはできます。

しかし、凡夫たる私たちにとって、儀式には、成人式や結婚式をはじめとして、儀式を通してその決意を新たにし、確認していくという大切な意味があります。

真宗門徒として、ぜひとも『帰敬式』をお受けいただき、宗祖親鸞聖人のみ教えを拠り所とした生活の第一歩を踏み出していただきたいと、願ってやみません。

『帰敬式』は真宗本廟(東本願寺)では、基本的には毎日、お一人からでも受式できますし、その他、東京の真宗会館や横浜別院、また当西来寺で受式する機会もございませう。

ご希望の方には、ご説明・ご案内をさせていただきますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

「宗祖親鸞聖人

七百五十回御遠忌法要」

三浦組団体参拝のご案内

来る平成二十三年、私どもは宗祖親鸞聖人の「七百五十回御遠忌」をお迎え致します。つきましては、同封致しますた別紙「案内」の通り、三浦組として東本願寺への団体参拝を予定しております。

宗祖親鸞聖人の御遺徳を偲び、報恩感謝の念を新たに、ご法要参拝の五十年に一度の機会となります。奮ってご参加下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

《同朋会のご案内》

当寺では、毎月二十八日(土・日)に当たる月は、変更になる場合があります。午後一時半より、同朋会を開催しております。

聞法を中心に、学習会・上映会など幅広い内容で、宗祖親鸞聖人の教えに触れる機会にしたいと願っております。ぜひ、お気軽にご参加ください。